

## センター月だより

〒 507 0034 多治見市豊岡町 55 まなびパークたじみ 4F TEL 0572-23-3455 FAX 0572-26-8813

## 指導日誌より

## = 多治見地区 =

公園で遊んでいる子はいなかった。下校中の小学生に、気を付けて帰るように声かけした。(1/10 共栄 3)

小泉小の下校時、校門で声かけ活動した。きょとんとしている子が多かったが、元気よくあいさつしてくれた子どもたちもいてうれしかった。(1/13 小泉 10)

多治見駅周辺で下校時の高校生や一般の人々にあいさつ声かけを行ないましたが、寒さのためか足早に通り過ぎ、声が小さくさびしく思いました。(1/13 南姫 9)

養正小の校門近くで声かけ。雨の日だったので、交通への配慮、横断の働きかけも出来た。高校生も元気よくあいさつしていた。(1/15 養正 7)

根本交流センターでは、サッカークラブの子どもたちが、雨のためたくさん来ていてにぎやかでした。(1/15 根本 10)

脇之島小の校門や下校路にて声かけ。子どもたちは皆元気にあいさつしてくれた。(1/15 脇之島 2)

部活帰りの中学生や、公園にいた大人と子ども

たちにたくさん声かけができた。子どもたちの元気な返事が良かった。(1/24 北栄 1)

夕方雨が降り出したが、公園で遊んでいる子供もいた。薄暗くなってきたので早く帰るよう声かけした。(1/26 池田 6)

## = 瑞浪地区 =

バロー中央店付近で男子高校生の無灯火自転車 2 台。ライトを付けるように指導。(1/6 瑞浪 B)

学生の姿は少なく、一般の人とのあいさつが多かった。(1/8 土岐 C)

寒くて通行人少ない。バロー裏 19号地下通路内の落書きまだ残っている。ゴミ多い。(1/9 瑞浪 A)

非常に寒い日で、散歩している人、ランニングしている人も見かけず。(1/13 明世 H)

風邪が強く冷たい朝でした。陶中校門であいさつ運動をしました。あいさつは返してくれますが、声が小さい生徒が多かった。(1/14 陶 E)

巡回時間を 2 時間繰り上げた。駅前には帰宅中の高校生が多数いた。声をかけてベンチ付近のごみを拾っていると、3 人の女子生徒が「ご苦労様です。」と、いっしょに拾ってくれた。さわやかな対

## 1 月 声かけ活動の結果

	多治見地区	瑞浪地区	土岐地区	合計
指導人数	4	2	0	6
声かけ人数	693	100	252	1045
指導員参加者	59	37	35	131

応に感動した。(1/16 日吉1)

前月より登校時の小中学生に朝のあいさつをしている。男子中学生がもっと元気があっても良いと思う。小学生の方が元気かな。(1/20 釜戸G)

### = 土岐地区 =

前月と比べ日の入りが遅くなり、下校中の子どもたちや児童館の子どもたちに会うことが多かった。明るいあいさつが返ってきた。(1/14 妻木3)

三起屋バローの警備の方より、月初め正面入り口の左側の壁際で男子2名女子4名のグループが集まり、中には横になって寝ている子もいたので、注意されたとのことでした。(1/14 泉9)

国道の新しい横断場所にも慣れ、「止まって」「行けるよ」などと言わなくても、自分たちで判断でき、あいさつの声も元気が良かった。自転車の子はしっかりと降りて渡っていた。(1/21 鶴里4)

濃南中前の国道横断場所で安全下校を見守り声かけした。(1/22 曾木5)

親と買い物に来た子に声をかけた。コンビニのオーナーの方と意見交換ができた。(1/22 駄知6)

児童センターでは、子どもたちはルールを守って活用出来ているとのことだった。この日は雨で子どもたちには出会わなかった。(1/22 肥田7)

雨のためか宝島には子どもはいなかった。店員の方の話では特に問題ないとのこと。駅前での声かけに多くの高校生が応えてくれた。(1/22 泉8)

巡回が中学生の下校時間と重なったため、多く

の生徒に声かけできた。きちんとあいさつが返ってきて感じが良かった。(1/23 下石2)

### 憎むは人の業にあらず

19才の大学生による殺人や、小学5年生の男子児童が刺し殺される事件が起こり、重苦しい空気が淀んでいます。2月1日にはシリアでジャーナリストの後藤健二さんが殺害されたと報道されました。

後藤さんが以前 Twitter に発信した次のようなメッセージが多くの人によって転送され、共感を呼んでいます。

『目を閉じて、じっと我慢。怒ったら、怒鳴ったら、終わり。それは祈りに近い。憎むは人の業にあらず、裁きは神の領域。 - そう教えてくれたのはアラブの兄弟たちだった。 2010年9月7日 22:49』

後藤さんの事件について、いろいろな人がいろいろ言っています。が、いま大事なことは、後藤さんが命を懸けてまで何を伝えようとしたのか、私たち一人一人がもう一度考えてみることはないでしょうか。

9.11 の後、米国が憎悪に駆られて始めた対テロ戦争は止むことなく広がっています。戦争を放棄した日本だからできる平和への貢献があるはず。皆がそれを考えるべきではないか。そしてそれが、この重苦しい空気を少しでも和らげていくことにも、つながるのではないかと思います。

### センターから

### < 巡回の時間と場所を見直して、子どもたちに声かけを >

指導員さん方の今年度の任期も、4月末までの残り2カ月余りとなりました。年度の切り替わりのこの時期が、私たちの活動にとって、実は大事な時期であるように思います。3月に入り中学校や高等学校の卒業式を終えた若者が、街角に出てきます。進学にせよ就職にせよ、彼らは新しい未知の生活を迎えます。若者の心の中は、大きな期待と不安が交錯していることでしょう。卒業生だけではありません。1学年進級する在校生たちも新しい学年に進みます。彼らもまた新しい学年への期待と不安を胸に秘めています。彼らを街角で見かけたらひと言、声を掛けてください。「今度、何年生？楽しみだね。」「ひとつ兄さん(姉さん)になるんだね。」「応援してるよ。」どんな言葉でも良いのです。避けねばならないのは、「悪さをしたら指導する。補導する。」という上から目線の態度です。あくまでも若者に寄り添う、支援するという気持ちが大切です。その気持ちがあればきっと通じます。このところ冬場に入って、声かけ人数が少し減っています。是非子どもたちに声かけをお願いします。

【訂正】先月の月だよりの「指導日誌より」の中で、土岐地区の4番目の報告が(12/17 下石3)とあるのは正しくは(12/17 妻木3)でした。お詫びして訂正します。